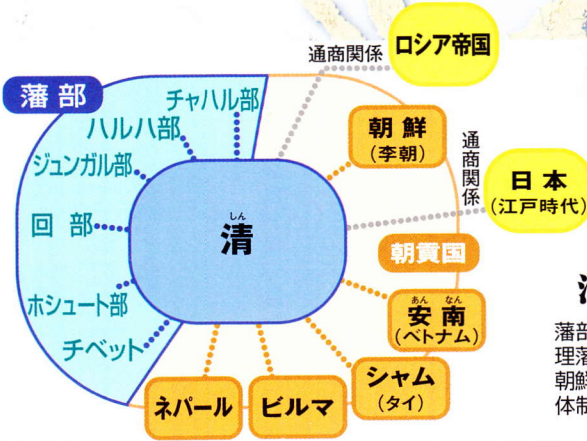


# 北方民族の帝国・清による中国支配



1636年  
1912年

明が滅亡し、再び北方民族が中華世界に君臨する。清王朝は20世紀初頭まで300年近く続いた。



## 明が滅び、北方の女真族が中国の支配者となる

16世紀末、日本軍の朝鮮半島侵攻に対し、明は朝鮮へ援軍を送った。北虜南倭に苦しんでいた明は、この派兵で財政がさらに逼迫し、国力も疲弊した。

1628年、明に不満をもつ農民らによる大規模な反乱が起こり、その指導者李自成は44年に北京を占領。ここに明は滅んだ。

これより先、現在の中国東北部一帯にいたツングース系の女真(満州)族が急速に台頭し、1616年にヌルハチが後金を建てた。後金は明を破って東北部を制圧、第2代ホンタイジになると、内モンゴルを併合して清を名のった。

清は、八旗という独特の兵制による強力な軍を保有しており、第3代順治帝のときに、明を滅ぼした李自成を倒して中国の支配者となった。

## 少数民族による巧みな支配体制を確立

清は北方民族の王朝ながら、科擧を行い、中央行政機関に満州族と漢民族を同数配置する満漢併用制をとるほか、中国文化を尊重した。しかし一方で、辮髪(べんぱつ)の強制、清の支配を否定する思想の弾圧など、威圧政策も行い、少数民族による支配体制を固めた。そして、康熙帝、雍正帝、乾隆帝の3代約130年の間に清は最盛期を迎え、モンゴル、チベット、台湾などを加えた版図は、中国史上最大となった。これにより、シベリアへ領土を拡大したロシア(P95参照)と対峙することとなり、国境確定のためネルチンスク条約とキャフタ条約が相次いで結ばれた。

Key Word  
八旗

後金、清の社会組織で、軍の編成にも使われた。黄、白、紅、藍の4色と、この四色旗に縁取りをした計8種の旗印の下、1旗あたり男子7500人を編成した。八旗に属する人は旗人とよばれ、政治・経済両面の特権を有した。ヌルハチが満州八旗を、ホンタイジが蒙古八旗と漢軍八旗を組織した。